

令和4年度 第2回国立市環境審議会 事前配布資料への意見

東京都多摩環境事務所環境改善課長
環境審議会委員 名取雄太

令和5年3月3日（金）開催の表記審議会につきまして、都合により欠席いたしますので、事前にいただいた資料を拝見したうえでの確認事項と意見を以下の通りお伝えします。

<確認事項>

前回の第1回審議会の中で、市民をいかに巻き込んでいくか、が大きな課題であるという意見が、委員間のある程度の共通認識としてあったかと思えます。その意見について、今回のロードマップ（案）ではどのように考慮されているか伺いたいと思えます。

<意見>

上記に関連し、市民等の意見を聞く機会として、市議会での議論やパブリックコメントを実施しているとのことですが、これらの既存の仕組みだけでは届かない層が実際には大部分を占めており、これまで届かなかったそういった層の行動変容をいかに促していけるかがゼロカーボンを実現する上での肝となると感じています。そういった視点で、これまでの仕組みに限らない、いわゆるサイレントマジョリティー的な市民を取り込む仕組み・工夫が必要ではないかと思えます。

そこで、今後具体的な取組を検討していくにあたって、個々の取組において、市民の参加を促す工夫を取り入れていくことも必要ですが、まずは、計画全体の主軸として「市民が主体で取り組む」という考え方を掲げるなどを検討してはどうでしょうか。特に、何か多くの市民に“刺さる”メッセージ性があるものが出せると良いと思えます。

以上

名取委員からの〈確認事項〉について

ゼロカーボンシティ実現を目指すためには、市民や事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。市民のみなさんを巻き込み、省エネや創エネといった行動をしてもらうためには、現状を知ってもらい、一緒に考えてもらう必要があると考えています。このロードマップはそのための資料と位置付けています。

ロードマップ（案）中の記述としましては、79 ページに「まちづくりの全体像」をお示しした図がありますが、「省エネ」や「創エネ」に加えて、「市民の意識向上等」も3本柱の一つに位置付けています。環境教育、情報発信と普及啓発を行うことで、市民の意識を向上させ行動変容を促すことで、省エネや創エネといった取組につなげていくという考え方です。

環境教育、情報発信と普及啓発に係る具体的な取組としては、前回の審議会においても、電気自動車のラッピングや LINE や Twitter を使った広報といったアイデアをいただきました。その他にも、わくわく塾という市民講座に積極的に出向くことや、サイレントマジョリティーの意見を反映するため、来年度には無作為抽出により選ばれた市民のみなさんと意見交換をする場の設定等も検討しております。